

大島商船高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	海事実務	
科目基礎情報							
科目番号	0024		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	商船学科		対象学年		2		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	「商船学の数理 基礎と応用」商船高専キャリア教育研究会（海文堂）／実験実習指導書／大島丸実習ノート／キャリアデザインノート／配布資料						
担当教員	千葉 元,久保田 崇,木村 安宏,前畑 航平,森脇 千春,村田 光明,岩崎 寛希,清水 聖治,川原 秀夫,朴 鍾徳,小林 孝一郎,渡邊 武,山口 康太,中村 泰裕,浦田 数馬,杉本 昌弘,山口 伸弥						
到達目標							
1. 船舶乗組員として必要な基礎知識・技術を習得し、船内機器の運転や保守管理に活用できる。 2. 各種航海計器および船用諸機関の基本原理と操作方法を理解し、実験・実習を遂行できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	船舶乗組員として必要な基礎知識・技術を習得し、船内機器の運転や保守管理に活用できる。		船舶乗組員として必要な基礎知識・技術を習得できる。		船舶乗組員として必要な基礎知識・技術を習得できない。		
評価項目2	各種航海計器および船用諸機関の基本原理と操作方法を理解し、実験・実習を遂行できる。		各種航海計器および船用諸機関の基本原理と操作方法を理解できる。		各種航海計器および船用諸機関の基本原理と操作方法を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
本校 (1)-b 商船 (2)-a							
教育方法等							
概要	海事実務は技能および技術を習得するとともに、技術者として望ましい態度や習慣を身に付ける。船舶運航に必要な工学基礎および基本海事英語を身に着ける。						
授業の進め方・方法	実習及び演習を主体とする。 工学基礎及び海事英語は講義を主体とする。 相互評価に「実技」「取組み」等を含める。 ポートフォリオに「課題」「レポート」等を含む。						
注意点	必要に応じて、実験実習指導書、大島丸実習ノート、配布資料を持参すること。 工学基礎は「商船学の数理 基礎と応用」および関数電卓を持参すること。 海事英語は 英和辞典 を持参すること。 安全について十分に配慮すること。作業服、安全靴、帽子を着用してくること。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	航海系実務(1)		甲板機械の操作要領が理解できる。		
		2週	航海系実務(2)		甲板機械の操作要領が理解できる。		
		3週	航海系実務(3)		甲板機械の操作要領が理解できる。		
		4週	配管調査		甲板送水に必要な配管系統を調査し、配管図を作成することができる。 GSポンプにより甲板送水を行い、送水圧力を調整することができる。		
		5週	主機発停（１）		主機の発停に必要な機器について認識できる。		
		6週	主機発停（２）		主機の発停に必要な機器について認識できる。		
		7週	消火講習		火災の性質、消火剤、消火設備、火災探知装置及び火災警報装置について理解できる。		
		8週					
	4thQ	9週	工学基礎(1)		関数電卓を使用して、工業数学に関する計算ができる。		
		10週	工学基礎(2)		関数電卓を使用して、工業数学に関する計算ができる。		
		11週	工学基礎(3)		関数電卓を使用して、工業数学に関する計算ができる。		
		12週	工学基礎(4)		関数電卓を使用して、工業数学に関する計算ができる。		
		13週	海事実務演習(1)		海事実務演習の内容に関して理解できる。		
		14週	海事実務演習(2)		海事実務演習の内容に関して理解できる。		
		15週	海事実務演習(3)		海事実務演習の内容に関して理解できる。		
		16週					
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	70	10	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	70	10	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0